

8年間、アパレル店で接客

S.S さん・燐燐(岐阜市)



「次の8年は介護を極める」

高校を卒業してから昨年の8月に燐燐に就職するまでの8年間は、若者向けアパレル店で働いていて、最後の1年間は店長をしていましたが、「店長も任せていいのですが」「店長も任せていたのですが」「実は小学生の頃、介護施設でボランティアをしたことがあります」とあり、その頃から介護の8年間は、やりがいを持って働いた。これ以上何を目指したらいいのだろうと、自分が何をやりたいのかを自指しながら、職に憧れを抱いていました。店に並んでいる服がう」という気持ちがよぎり、大好きでしたし、たくさん他にしたい仕事をと考えた。高校は服飾デザイン科

と福祉科で迷ったほど。結局、服飾デザイン科に進んだこともあり、アパレル店員になるという夢を先にかなえました。ですので周囲からは「介護職をするタイプではない」と言われますが、自分の中では自然な流れだと感じています。そして母の知り合いに幸紀会で働いている方がいたので、縁で燐燐へ見学に行き、安江紀子理事長に「8年間も続けてきたことがあるならここでも頑張りますよ」と声を掛けていただけたこと、勇気をもらい、転職を決めました。

最初の頃は特に、わからないことが多いで戸惑いもせていたのですが、優しい先輩たちと一緒に位の時間をお過ごせば見えてくるものもあるのです。方には慣れて頑張っていましたが、優しい先輩は8年間続けることを目標とと思っていましたので、まず私は以前、介護用語をメモ帳に書いて渡していくべきです。

私のいたお店は店長であってもパート扱いでした。今は正職員で、休みはしっかりともらえて、税金等の手続きは職場がしてくれます。私にとって当たり前ではなかつたことですが、アパレル業界に戻りたいという気持ちはありませんが、働く年月はかけがえのない時間だったと胸を張って言えます。私の自慢です。介護でも、アパレルと同じ位の時間をお過ごせば見えてくるものもあるのです。私は8年間続けることを目標とと思っていましたので、まず私は以前、介護用語をメモ帳に書いて渡していくべきです。